

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 5年 2 月 13 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471503171		
法人名	陽気株式会社		
事業所名	グループホームようき法成寺		
所在地	〒720-2413 福山市駅家町法成寺 2 8 0 8 - 1 (電話) 084-949-3230		
自己評価作成日	令和5年1月16日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3471503171-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和5年2月10日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>業務改善に努め、ご利用者と関わる時間を増やすことに力を入れています。また、業務改善だけでなく、個々の力量向上にも努めています。面会時や変わりがあった際には、御家族と密に情報を共有し対応の方針を決めていくように全スタッフで取り組んでいます。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>毎年度、サービス目標を掲げ取り組み、研修体制の充実やホームが目指すべき理念及びサービス方針を明確化し、地域ニーズも取り入れた運営方針としている。職員同士が話しやすい雰囲気があり、日々の申し送り、毎月のカンファレンスなどで話し合いを重ねることで利用者の想いを実現している。最近の特徴的な取り組みとして、令和3年8月に事業所内のリフォームを実施し、面会時に雨をしのげる工夫として屋外に雨除け用のルーフの設置や回路式にする事で快適性が増している。家族との情報共有を図るために、LINEアプリやメールを活用している。排泄の自立支援として、日頃の状況を把握し、立位がしやすいようにトイレの手すりに目印で赤・黄・青のカラーテープを張り付けることで自立支援の促しや紙おむつから日中は布パンツへ移行、トイレの誘導回数を増やすなど本人の立場で常に考え支援の充実を図っている。</p>

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	全職員が会社全体の理念を踏まえた上で行っていきたい介護像について話し合い、地域の中でより良く暮らせるよう事業所独自の目標を作成している。	毎年目標を掲げ月2回のカンファレンスで検証している。ホームでの取り組みは、2カ月毎の管理者会議で代表者にフィードバックしている。SDGsの勉強会、eラーニングで学習など、職員個々の力量、成長していくシステムがある。今年度のテーマは、『陽気な笑顔』を重点に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	日々の挨拶を交わしている内、最近ではご近所の方から先に気付き、挨拶をしてくださる機会も増えてきた。野菜などを持ってきてくださる事もある。	地域の清掃活動に参加している。日頃からの挨拶で近所の人達と自然な形で関わるにより、関係性が構築出来ている。年2～3回の町内清掃時は、事業所を開放し、町内の人がトイレを使用している。資源回収、溝掃除、気候が良ければ散歩時に挨拶を交すことにより、野菜などを頂く機会がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	例年では運営推進会議に隣接している地域の方、町内会長、民生委員等招いて、その際に勉強会を実施することで高齢者介護の理解を地域へ普及している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	年4回、家族会を兼ねて実施している。ご利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	当会議は書面にて行っている。以前は、民生委員、市担当者、地域包括支援センター職員、町内会長、家族の参加があり、家族の方が参加しやすいように、昼食を兼ねて家族会を実施していた。コロナ禍で以前のメンバーとの関りが少ないため、町内会長と密に連絡や意見交換をしたいと準備している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。また、運営推進会議には市の職員や地域包括支援センターの職員に声をかけ参加を促している。	主に管理者とケアマネジャーが市担当者と連絡を取っている。事故報告書の提出、認定調査、空き状況など普段から連絡を密に取り、報告や情報交換など連携している。次年度は、障害分野のデイサービスを運営し、本社では認知症カフェを開催するなど地域ニーズに応えるように尽力している。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についての勉強会は年2回行っている。またカンファレンスで日頃利用しているクッションの対応の仕方でも拘束になっていないか職員全員で理解・認識し、ケアにつなげたり、同会議で年6回身体拘束廃止委員会を開き、検証も行っている。	年2回の研修実施、情報技術を用いて行う、YouTube、eラーニングで学習など、職員個々の力量、成長していくシステムがある。今年度から独自の不適切ケア自己点検シートを作成し、毎月の行動を振り返り確認する事で、常に職員は、身体拘束の無いケアを日々実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。	eラーニングで学習を行ったり、カンファレンス内の勉強会にて、不適切ケアの事例を読んだり、youtubeで動画を見る機会を作っている。又、毎月「自己点検シート」を用いて、自身の行動の振り返りをしてもらっている。	/	/
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	事業所の勉強会などで学ぶ機会をもうけている。未だ必要性はないが今後活用していきたい。	/	/
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	細かく説明を行い、疑問があればその都度お聞きし理解・納得して頂けるよう努めている。	/	/
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に意見箱を設置すると共に、面会時や家族会で何か要望や意見がないか聞いている。希望者には、LINE登録して頂きビデオ通話や生活の様子を動画で撮影し送っている。	新型コロナウイルス感染状況に応じて、オンライン面会、短時間の対面面会など柔軟に対応をしている。家族へはLINEや日頃の暮らしぶりを『法成寺通信』に載せて、利用者が穏やかに過ごす姿を伝えている。要望については、ITの活用により情報共有することで、職員間で迅速に対応している。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	個人面談の際や、振り返りシート、カンファレンス、日々の関わりの中で意見を聞く機会をもうけている。また、必要と思われる内容であれば、反映させている。	年4回は個別面談の場を設けている。月2回のカンファレンスを開催し、利用者の支援の充実を図っている。毎月の振り返りシートにて進捗状況をコメントでやり取りするなど達成に向けて事で、職員個々のストレスに感じている事を解消するように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の勤務状況や胸の内を語りやすいよう、日々の会話を大切にしている。定期的に面談や必要に応じて話し合いを行う機会をつくり、改善しながら働きやすい環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	eラーニングという介護研修動画を用いて職員のスキルアップを行っている。また、個人の教育計画をたて、毎月の振り返りシートにて進捗状況をコメントでやり取りするなど達成に向けて進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域の研修に参加したり、実習で知り合った同業者とのつながりを大切にし、サービスの質を向上させていけるよう努めている。また、相互研修へ参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人に安心して日々過ごしていただけるよう、思いを汲み取ると共に、安心して胸のうちを話していただける関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご利用者と共にご家族に心から信頼していただけるよう、気軽に何でも言える雰囲気作りを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ケアマネージャーと連携を図り、その時必要なサービスを見極めていけるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご利用者を人生の先輩として尊敬し、介護される一方の立場に置かず、一緒に生活するなかで喜怒哀楽を共に感じあえる関係作りを築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人の状態や気持ちに変化が合った場合は、面会時、又は電話などで報告し、ご本人とご家族の絆を大切にしながら、共に支えていく関係を築けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	個々の馴染みの人や場所などを職員全体が把握し、面会時に談笑しやすい環境づくりや、外出時に馴染みのある場所へお連れしたりと支援に努めている。	今までの生活習慣から、馴染みの場所、自宅へ帰る、出生地へのドライブなど、出掛けている。電話のやり取り、年賀状を受け取る事での喜びなど、本人が大切にしてきた方々の面会時には会話を支援するなど、継続的に面会に来てもらえるような雰囲気作りに努めている。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者同士の関係を把握し、気の合うご利用者同士が時間を共有できる環境づくりに努めている。うまくかかわることが難しいご利用者には職員が傍に寄り添い、支えあえるような関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了されたご家族が職員やご利用者に話しにこられたりという関係が築けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々の思いや暮らし方の希望・意向などを面会時にご家族とご本人に聞いている。また、日々の暮らしの中でご本人から聞き取り把握して本人本位に努めている。困難な場合は、体に触れたり話しかけたりして関わるようにしている。	利用者を共に生活するパートナー、職員担当者を決め、日々一緒に利用者に関わることで利用者の想いの把握に努めている。公用車で本社に食事を取りに行く際、車内では利用者との唯一のコミュニケーションの場となっている。利用者個々の希望や意向を反映し、可能なことは実現している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントの段階で確認を行い、その後も面会時にご家族、ご本人よりお聞きしたことを記録に残し全員で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の一日の過ごし方や心身状態などを記録などで細かく残し、申し送りやシステムの確認により全員が把握するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ご利用者一人ひとりに担当者「ライフパートナー」がおり、アセスメントを作成している。全員で共有後、随時介護計画を立てている。</p>	<p>担当職員がアセスメントを行い、利用者・家族の意向を踏まえ、多職種の意見やアイデアを反映した計画を作成している。本人の出来る事、出来そうな事を把握し、自立に向けての声掛けや、例えば、立位がしやすいようにトイレの手すりに目印のカラーテープを張り付ける事で自立支援を促している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の様子やケアの内容などを細かく記録に残し、申し送り、チェック表やシステムの活用により、職員全員が情報を共有ながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>随時ご本人やご家族のニーズを把握、理解し全職員で前向きに検討し、支援、サービスを行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>例年は趣味や様々な活動に応じていけるよう、地域の行事(清掃活動)に参加したり、ボランティアに来ていただいたりしている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>提携先の病院がかかりつけ医となっており、ほぼ全てのご利用者が主治医となっており、毎日のように往診があり夜間含め連携が取れている。</p>	<p>利用開始時にかかりつけ医の希望を聴いているが、毎日の往診や緊急時にも連絡体制が整えていることもあり、殆どの利用者が事業所の協力医である。本人の病状に応じて他科の受診も可能であり、その際には事業所の車いす専用の公用車で受診対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	施設内に看護師がいないため、介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを日々観察しており、かかりつけの医療機関の看護師とも日々相談やアドバイスをいただきながら連携をとって支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は度々面会に行き、状態の把握・病院関係者から情報収集を行ったり、ご家族と連絡を取り合いながら情報の交換を行っている。また病院が主催するカンファレンスへ参加し、早期退院できるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居の契約時の際、看取りについてのアンケートを実施している。また、ご利用者の状態に応じて出来るだけ早い段階から主治医、ご家族と連携を密にし全員で取り組んでいくようにしている。	eラーニングの研修を取り入れている。看取りの経験もあり、希望があれば看取りをする方針である。利用開始時に家族への説明を行い、重度化した場合、医師と良く話し合い方針を決めている。医師も近距離に居住しており、相談が取りやすい環境である。家族が希望すれば寝泊まりを可能としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	一年に一回は訓練を行っている。個々で勉強したことはカンファレンスで発表し、全員で情報を共有している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の火災訓練を実地、1回は消防署立ち合いの元、消火器訓練も行っている。また、地域の方々へのご協力も頂けるようお願いしている。	年2回の訓練と適宜、訓練時に近隣住民と共に訓練をしている。法人内の厨房には、セントラルキッチンが完備されており、食品など備蓄をしている。有事の際を踏まえ、同グループからの応援体制を整えている。日頃からタコ足配線を避けたり、コンセント周辺の掃除などしている。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々の人格を尊重し、職員全員で声掛けや対応などに注意している。事業所内での勉強会も行っており、カンファレンスなどで対応の統一行っている。また、今年度は毎月自己点検シートを用いて、自身の言動を振り返っている。	事例集やYouTubeなどで研修をしている。今年度は不適切ケアの自己点検シートを活用し、例えば、子ども扱いにしない、トイレでは扉を開けて介助をしないなどの項目の振り返りにより職員の意識を高めている。2カ月毎の管理者会議で同グループの取り組み状況も参考している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員主体にならないよう十分に気を配っている。伝わりにくい方には選択できるような声掛けに変えたりと出来るだけ本人に選択していただいたりと個々に合わせて支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務、職員の都合を優先せず、個々のペースを大切にし、ご本人の希望にそった一日を過ごしていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	髪型、服装などご本人に選択していただけるよう努めている。難しい方には色の好みやその日の気温などをお伝えし、複数の中から選択していただいたりと個々にあわせて支援している。又、昔馴染みの理髪店などを希望される場合はお連れしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	可能な限り、皿洗いや食器の下膳等家事活動に参加していただいている。また、日々の食事を記録することで本人の状態を把握し、食事形態の変更（ミキサー食、ご飯をおにぎりにする）等も検討しながら健康の維持に努めている。	昼食、夕食のおかずは、本部のセントラルキッチンで作ったものを利用している。可能な限り、利用者も下準備など行っている。職員の行事担当者が主に企画し、年4～5回のお楽しみ会では、巻きずし、たこ焼き、かき氷、そうめん流しなど季節を感じて頂くメニューを提供している。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>毎日記録に残し、個々の平均値の把握もしている。個々に応じた形で対応している。水分量の少ないご利用者へはカンファレンスで話し合い、ゼリーや栄養補助食品を提供するなど個別に対応している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>個々に合わせた方法で口腔ケアを行っている。歯科との連携によりアドバイスをいただき、改善に努めている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個々の排泄パターンや習慣を把握し、排泄の失敗により自尊心が傷つかないように注意しながら、できるだけ自立した排泄を行っていただけるよう支援している。また、トイレ誘導の数を増やしオムツの使用を減らすなどにも取り組んでいる。</p>	<p>トイレに座ることを基本とした支援をしている。紙おむつ使用者の方もなるべく布パンツへ移行し、トイレ誘導の回数を増やし紙おむつの使用量の削減に取り組んでいる。居室のポータブルトイレ使用者も介助バーを設置する事で、移動がしやすく本人の自立度が上がった事例がある。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>すぐに薬に頼ることはせず腹部のマッサージや食物繊維の含まれる食品を多く献立に入れたり、エクストラバージンオイルの使用や、牛乳や豆乳を飲んでいただくなど、水分摂取の配慮などに努めている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>希望のある方は極力希望通りに対応している。訴えの少ない方も曜日や時間など職員の都合だけでなくご本人の思いや体調を大切にしている。洗髪や入浴事態を嫌がられる方にはドライシャンプー使用や足浴を実施。</p>	<p>週1～2回の入浴をしている。ヒートショック予防として、暖房機を設置している。本人の好むシャンプーや石鹸などを使用している。適宜、入浴後の楽しみとして、ゼリー、アイスクリームを食べたりしている。入浴が難しい場合は、ドライシャンプーの使用や足浴を実施している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	就寝時間は決まっておらず、個々の希望される時に休んでいただいている。意思表示が難しい方は、表情を観察したり、声掛けを行いご本人が気持ちよく休んでいただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬については参考資料を置いたり処方箋などで把握し全職員で共有している。新しく処方された薬は口頭や記録などに残し、全員が内容を把握するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	今までの生活歴をご家族、ご利用者から伺い、それを活かせる環境づくりや、楽しめる時間を設け気分転換をしていただけるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	昼・夕のおかずを本部に取りに行く際、一緒に外出されたり、遠方や個別になる場合はご家族と相談し協力を得て行っている。お墓参りに行きたいというご希望がある際にも支援させて頂いている。	毎月の資源回収では利用者と職員が一緒に対応している。お花見、紫陽花、彼岸花など見に出掛けている。事業所周辺の散歩、本部に食事を取りに行く際にドライブを兼ねて出掛けている。例えば、『お墓参りに行きたい』という希望があれば、家族と相談し、家族対応で外出をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	普段はお預かりしているが買い物時に所持して頂き一緒に買い物に行っている。しかし、今年度は新型コロナウイルスの影響で実施できていない。		

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望がある場合は自ら電話で話しをしていただいている。手紙は職員が投函し、安心していただけるようご本人にお伝している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節のものを飾ったり四季を感じていただけよう壁画や壁飾りをご利用者と一緒に作成、貼り付けしている。冷暖房器具の調節、カーテンの調整などに配慮している。常にご利用者の立場で考えている。	季節の飾りつけをしている。衛生面にも気配りし、テーブルやソファの位置など工夫を行い、明るく広い共有空間としている。リビングの窓からは、大きな池や朝日が昇る様子が毎日のように眺められる。使い勝手が悪かった2階は、回路式にすることで快適性が増している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	色々な場所に机や椅子を置いており、ご本人が過ごしやすい空間づくりに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居心地の良い空間で過ごしていただけるよう、布団やタンス等使い慣れた物や馴染みのある家具をご家族に持ってきていただいている。	エアコン・ベッド・カーテン・照明・衣装ケース・押入れが備え付けられている。家族の写真や今まで使っていた家具、大事にしていた物品などを自由に持ち込んでいる。本人の状況、生活スタイルに応じて、その都度、家具やベッドの位置などレイアウトを柔軟に変更している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	できることはしていただき、できないところは手伝わせてもらっている。ご本人が不快にならないよう注意し、自然な声掛けや傍で見守りをさせていただき、トイレや居室などは人目で分かるよう表示している。		

V アウトカム項目(1階) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	全職員が会社全体の理念を踏まえた上で行っていきたい介護像について話し合い、地域の中でより良く暮らせるよう事業所独自の目標を作成している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	日々の挨拶を交わしている内、最近ではご近所の方から先に気付き、挨拶をしてくださる機会も増えてきた。野菜などを持ってきてくださる事もある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	例年では運営推進会議に隣接している地域の方、町内会長、民生委員等招いて、その際に勉強会を実施することで高齢者介護の理解を地域へ普及している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	年4回、家族会を兼ねて実施している。ご利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。また、運営推進会議には市の職員や地域包括支援センターの職員に声をかけ参加を促している。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についての勉強会は年2回行っている。またカンファレンスで日頃利用しているクッションの対応の仕方について拘束になっていないか職員全員で理解・認識し、ケアにつなげたり、同会議で年6回身体拘束委員会を開き、検証も行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。	e-ラーニングで学習を行ったり、カンファレンス内の勉強会にて、不適切ケアの事例を読んだり、youtubeで動画を見る機会を作っている。又、毎月「自己点検シート」を用いて、自身の行動の振り返りをしてもらっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	事業所の勉強会などで学ぶ機会をもうけている。未だ必要性はないが今後活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	細かく説明を行い、疑問があればその都度お聞きし理解・納得して頂けるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に意見箱を設置すると共に、面会時や家族会で何か要望や意見がないか聞いている。希望者には、LINE登録して頂きビデオ通話や生活の様子を動画で撮影し送っている。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	個人面談の際やカンファレンス、日々の関わりの中で意見を聞く機会をもうけている。また、必要と思われる内容であれば、反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の勤務状況や胸の内の語りやすいよう、日々の会話や「振り返りシート」を活用している。定期的に面談や必要に応じて話し合いを行う機会をつくり、改善しながら働きやすい環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	eラーニングという介護研修動画を用いて職員のスキルアップを行っている。また、個人の教育計画をたて、達成に向けて進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域の研修に参加したり、実習で知り合った同業者とのつながりを大切に、サービスの質を向上させていけるよう努めている。また、相互研修へ参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人に安心して日々過ごしていただけるよう、思いを汲み取ると共に、安心して胸のうちの話をいただける関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご利用者と共にご家族に心から信頼していただけるよう、気軽に何でも言える雰囲気作りを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ケアマネージャーと連携を図り、その時必要なサービスを見極めていけるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご利用者を人生の先輩として尊敬し、介護される一方の立場に置かず、一緒に生活するなかで喜怒哀楽を共に感じあえる関係作りを築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人の状態や気持ちに変化が合った場合は、面会時、又は電話などで報告し、ご本人とご家族の絆を大切にしながら、共に支えていく関係を築けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	個々の馴染みの人や場所などを職員全体が把握し、面会時に談笑しやすい環境づくりや、外出時に馴染みのある場所へお連れしたりと支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者同士の関係を把握し、気の合うご利用者同士が時間を共有できる環境づくりに努めている。うまくかかわることが難しいご利用者には職員が傍に寄り添い、支えあえるような関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了されたご家族が職員やご利用者に話しにこられたりという関係が築けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々の思いや暮らし方の希望・意向などを面会時にご家族とご本人に聞いている。また、日々の暮らしの中でご本人から聞き取り把握して本人本位に努めている。困難な場合は、体に触れたり話しかけたりして関わるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントの段階で確認を行い、その後も面会時にご家族、ご本人よりお聞きしたことを記録に残し全員で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の一日の過ごし方や心身状態などを記録などで細かく残し、申し送りやシステムの確認により全員が把握するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ご利用者一人ひとりに担当者「ライフパートナー」がおり、アセスメントを作成している。全員で共有後、随時介護計画を立てている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の様子やケアの内容などを細かく記録に残し、申し送り、チェック表やシステムの活用により、職員全員が情報を共有しながら実践や介護計画書の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>随時ご本人やご家族のニーズを把握、理解し全職員で前向きに検討し、支援、サービスを行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>例年は趣味や様々な活動に応じていけるよう、地域の行事に参加したり、ボランティアに来ていただいたりしている。しかし、今年度は新型コロナウイルスの影響で実施できていない。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>提携先の病院がかかりつけ医となっており、ほぼ全てのご利用者が主治医となっており、毎日のように往診があり夜間含め連携が取れている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	施設内に看護師がいないため、介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを日々観察しており、かかりつけの医療機関の看護師とも日々相談やアドバイスをいただきながら連携をとって支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は度々面会に行き、状態の把握・病院関係者から情報収集を行ったり、ご家族と連絡を取り合いながら情報の交換を行っている。また病院が主催するカンファレンスへ参加し、早期退院できるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居の契約時の際、看取りについてのアンケートを実施しています。また、ご利用者の状態に応じて出来るだけ早い段階から主治医、ご家族と連携を密にし全員で取り組んでいくようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	一年に一回は訓練を行っている。個々で勉強したことはカンファレンスで発表し、全員で情報を共有している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の火災訓練を実地、1回は消防署立ち合いの元、消火器訓練も行っている。また、地域の方々へのご協力も頂けるようお願いしている。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々の人格を尊重し、職員全員で声掛けや対応などに注意している。事業所内での勉強会も行っており、カンファレンスなどで対応の統一を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員主体にならないよう十分に気を配っている。伝わりにくい方には選択できるような声掛けに変えたりと出来るだけ本人に選択していただいたりや個々に合わせて支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務、職員の都合を優先せず、個々のペースを大切に、ご本人の希望にそった一日を過ごしていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	髪型、服装などご本人に選択していただけるよう努めている。難しい方には色の好みやその日の気温などをお伝えし、複数の中から選択していただいたりや個々に合わせて支援している。又、昔馴染みの理髪店などを希望される場合はお連れしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	可能な限り、家事活動に参加していただいている。また、日々の食事量を記録することで本人の状態を把握し、食事形態の変更等も検討しながら健康の維持に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>毎日記録に残し、個々の平均値の把握もしている。個々に応じた形で対応している。水分量の少ないご利用者へはカンファレンスで話し合い、個別に対応している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>個々にあわせた方法で口腔ケアを行っている。歯科との連携によりアドバイスをいただき、改善に努めている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個々の排泄パターンや習慣を把握し、排泄の失敗により自尊心が傷つかないように注意しながら、できるだけ自立した排泄を行っていただけるよう支援している。また、トイレ誘導の数を増やしオムツの使用を減らすなどにも取り組んでいる。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>すぐに薬に頼ることはせず腹部のマッサージや食物繊維の含まれる食品を多く献立に入れたり、エクストラバージンオイルの使用や、牛乳や豆乳を飲んでいただくなど、水分摂取の配慮などに努めている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>希望のある方は極力希望通りに対応している。訴えの少ない方も曜日や時間など職員の都合だけでなくご本人の思いや体調を大切にしている。洗髪や入浴事態を嫌がられる方にはドライシャンプー使用や足浴を実施。</p>		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	就寝時間は決まっておらず、個々の希望される時に休んでいただいている。訴えない方は、表情を観察したり、声掛けを行いご本人が気持ちよく休んでいただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬については参考資料を置いたり処方箋などで把握し全職員で共有している。新しく処方された薬は口頭や記録などに残し、全員が内容を把握するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	今までの生活歴をご家族、ご利用者から伺い、それを活かせる環境づくりや、楽しめる時間を設け気分転換をしていただけるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	昼・夕のおかずを本部に取りに行く際、一緒に外出されたり、遠方や個別になる場合はご家族と相談し協力を得て行っている。お墓参りに行きたいというご希望がある際にも支援させて頂いている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	普段はお預かりしているが買い物時に所持して頂き一緒に買い物に行っている。しかし、今年度は新型コロナウイルスの影響で実施できていない。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望がある場合は自ら電話で話しをいただいている。手紙は職員が投函し、安心していただけるようご本人にお伝している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節のものを飾ったり四季を感じていただけるよう壁画や壁飾りをご利用者と一緒に作成、貼り付けしている。冷暖房器具の調節、カーテンの調整などに配慮している。常にご利用者の立場で考えている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	色々な場所に机や椅子を置いており、ご本人が過ごしやすい空間づくりに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居心地の良い空間で過ごしていただけるよう、布団やタンス等使い慣れた物や馴染みのある家具をご家族に持ってきていただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	できることはしていただき、できないところは手伝わせてもらっている。ご本人が不快にならないよう注意し、自然な声掛けや傍で見守りをさせていただき、トイレや居室などは人目で分かるよう表示している。		

V アウトカム項目(2階) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームようき法成寺

作成日 令和5年3月23日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2 ・ 3 ・ 4	運営推進会議の開催と地域との繋がりが現状まだ薄い。	地域との繋がりを密に、運営推進会議に参加して頂き、意見交換をしていく。	運営推進会議の開催と参加への声掛け。地域の行事への参加。	1年
2	13 ・ 14	コロナ禍で外部の研修や他事業所との関りが少ない為、スタッフの視野を広げる機会が少ない。	スタッフ個々人の知識や視野を広げていく。	オンラインや外部研修に参加していく。	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。